

10:11 新花巻着
↓大型タクシー(山田町の被災事業所)にて移動
13:00 山田町山谷(ヤマヤ)仮設住宅到着
13:30 交流会開始
16:00 交流会終了

この後、時間があつたら山田町内の仮設住宅を回る。(宿泊は、佐々木自宅)

8/3(水) 08:30 山田町山谷地区出発
↓大型タクシーにて移動
09:30 重茂地区回る
11:00 おもえ支援センター

重茂児童館

・昼食弁当は持参。センター又は児童館で食べながら、職員と話し合います。

14:00頃 重茂出発
↓大型タクシーにて移動
17:00頃 釜石駅着

被災地自治体との連携

市民協では、これまで宮城県との間で復興支援のあり方について協議してきました。県議会で予算の承認がありましたので、これからが本格的な活動です。

県の長寿政策課作成の復興計画にも市民協は協力団体として確認されています。

基礎自治体めぐりをおこないます。今週は山元町と東松島市を田中尚輝専務理事と現地コーディネーターと一緒に訪問します。具体化しましたら、報告します。

市民協常務理事会開催、研修事業を重点に

市民協の事務所を日本女子会館の1階から4階に引っ越します。

7月25日に市民協常務理事会を開催しました。そこで、事務所の引越しをきめました。これは本年の総会で決定していましたが、8月15日の週に引っ越の予定です。1階から4階に移るだけなので、住所、TEL、FAXなどには変更ありません。

これまでは、公益社団法人長寿社会文化協会の事務所を間借りしていましたが、独立した事務所になります。約20坪ありますので、約半分強程度を研修室にします。25人程度の勉強会ができます。

市民協としてはこれまでの活動にプラスして研修事業に力点をおきます。本部事務所の会議室をフル活動させる予定です。ご期待ください。



グランマリバーサイド立川
[高齢者賃貸住宅入居者募集中です！！](#)

詳細はこちらから.....

<http://www.granma.jp/riverside-t/index.html>

★介護サービスくら ★おもいやり支援センターくまの ★グリーンコープ ★
★たすけあい佐賀 ★全労済 ★宅老所を全国に広める会 ★
★一般社団法人 市民事業支援機構★

「東日本大震災宅老所復興支援プロジェクト」

がはじまいます!

前述した総会当日の午後からは基調講演としてNPO法人CS神戸の中村順子さんをお迎えして震災支援活動を通しての地域共生についての講演をしていただく予定でしたが、講師の緊急入院により急遽変更して今迄の震災支援に行った方々の報告と今後の支援のあり方についての意見交換会を行いました。皆さんの助け合いや地域共生の思いの深さを共有できる貴重な時間となり、県宅老所連絡会としては、継続的で効果的な支援をするためには現地との絆が重要で、現地の宅老所を応援することで震災復興の手助けになるのではないかと考えに到り、今後は現地宅老所と連携をとりながら必要な支援を継続して実施し続けるということが決まりました。



その後、7月当初に表紙で紹介した東松島市（すみちゃんの家）に介護車両と支援物資の贈呈・山元町（ささえ愛山元）の宅老所復活のための瓦礫の撤去をはじめ、仮設住宅（ひびき工業団地）の「コミュニティづくり支援」「パラソル喫茶」を市民協と連携して実施しました。5名の佐賀からの参加者にとっても充実した活動となりました！「パラソル喫茶」は多様なボランティアと現地の方などの皆でつくる毎月第1日曜日のミニイベントです。次回の8月7日は「夏祭り」を予定して、現在、皆で準備をしているところです。現地の方々に寄り添う形で子どもも大人もボランティアも、できることで楽しみながら、本音のニーズを直接掘り起こして支援から復興のお手伝いを行っています。県宅老所からも毎月2〜3名の方を現地へ送りたいと計画しております。ぜひ皆様も参加してください！



【震災復興支援に関してのお問合せ先】
佐賀県宅老所連絡会 TEL:0952-23-6950

佐賀県宅老所連絡会の若い力のおかげでデイサービスは綺麗になってきました。汗をたらだらかきながら腕力のあるところを見せていただき、道路や網戸を綺麗にしてくれました。大変ありがたかったです。被災した地域に人が戻って来るにはまだまだ時間がかかりそうですが、ささえ愛山元が復活すれば、そこを拠点にまた人が戻ってきて、繋がりが広がりができるのではないかと一途の希望を胸に頑張ります！

失意の中にいた私どもを励ましていただき、本当にありがとうございます。復興に向けて進んでおります。重ねて御礼申し上げます。
NPO法人ささえ愛山元 中村 怜子

東日本大震災 NPO 支援寄付金（寄付者一覧：順不同・敬称略）※総会以降分

総会時募金	73,030 円	お世話宅配便	50,000 円	江北なごむの里	5,000 円
NPO ひまわり	31,549 円	ふくしの家	20,000 円	愛あい	38,000 円
たすけあい佐賀	100,000 円	桜が咲く頃	1,000 円	今人	10,000 円
西田京子	50,000 円	天山の里	5,000 円	さくらさくら	30,000 円
西田・吉村・山田	96,800 円	介護ホームもものかわ	10,000 円	KCAY	10,000 円
たすけあい佐賀理事一同	50,000 円	こだま	10,000 円	（総会までの支援金は市民協の WEB サイトや FAX 通信に掲載させていただいております。）	
よってこ間堀募金箱	10,073 円				

【収入合計：605,452 円／支出合計：301,197 円】明細については後日お知らせいたします。※7月20日付

こうれいしゃ死から生へ

介護保険共同推進機構顧問弁護士 村田光男

3 食堂

6人掛けのテーブルが3卓と8人掛けのテーブルが1卓。従って、テーブルごとの4つの社会関係が食事中に展開する。

調理チーム3つと、非調理チーム1つ。調理チームは、毎日台所で顔を合わせあれこれと意見交換することから、家族的なチームになっている。ただ、毎日のことであるから、意見が合わないこともある。職員が仲裁するが、誤解が人間関係をこじらせることはよくある。最も危険なのは、直接話を聞いていないケースだ。

A子、B男、C子、D子、E子、F子のテーブルでのこと。男性はBだけだ。

「A子さんはいじわるよ。私が調理場にいても役にたたないって言うんですよ。」E子がA子に聞こえるほどの声で言った。A子は黙っていた。

「そんなことをA子さんが言うわけないわよ。」C子がA子をかばった。

「A子さんから直接聞いたんですか。」C子が続けた。

「D子さんから聞いたのよ。A子さんがそう言ってるって。」E子は答えた。

「あらいやだ。私そんなこと言ってないわ。」D子が反論した。

「Eさんは裁縫が得意なのよ、とA子さんは言ったのよ。調理場でね。」D子が続けた。

「やっぱり調理はへたということでしょ。」E子はまだ不満そうだ。

「ちがいますよ。A子さんは、E子さんの調理の腕前もほめてたわ。」D子が反論した。

A子とはいうと、意外にもC子、D子、E子の会話をにこやかに眺めている。

「あなたは調理もできるし、裁縫もできるからうらましわ。」A子が締めくくった。

どうしてA子は彼女たちの会話をにこやかに眺めていられたのか。その鍵は、職員だった。

職員は、もちろんC子、D子、E子の会話を聞いている。作業をしながらでも、食堂で交わされる入居者の会話には何人かの職員が手分けをして聞いている。聞き耳を立てているわけではない。聞こえている、が正確な言い方だ。

A子は、そんな職員を横目で見ているか、職員の反応を感じ取っていた。A子は職員に理解されていると思っている。それを疑ったこともないし、疑う出来事も起きていない。職員が口や手を出さずに見守っているということは、必ずE子の誤解は解けるということを意味していた。A子は、安心して眺められたというわけだ。

「A子さん、ごめんなさいね。」E子が明るい声で言った。A子はニコリうなずいた。

8人掛けのテーブルから話し声がする。

「あら、そうですの。」とX子。

「そうなんですよ。あなたと同じ新潟の出身ですよ。」とY子。

「新潟のどちらですの。」

「長岡です。」

「花火の有名な長岡ですか。私は新潟市。海は荒海、向こうは佐渡よ……。新潟の海辺のほう。護国神社の近くです。その神社のまわりでよく遊んだわ。街のほうに少し行くと白山神社もあるの。今の神主さんは、息子の同級生ですよ。」

「そうですの。」

「長岡は、長岡藩家老河井継之助の出身地。中立国を作ろうとしたのよ。官軍に負けて死にましたけどね。」Y子が続けた。

同郷のX子とY子の会話だった。

「A子さん。お薬、飲みましょうか。」

食事が終わると、職員cが薬を持ってやってくる。ひとりひとりに介助する。薬が不要な人など、この施設にはいない。食事をはじめから、この職員cの「薬を……」の声掛けまで、4つのテーブルで話声が絶えることはない。

X子とY子の話の続きだが……

共に故郷が新潟であること。夫と死に別れたこと、兄弟姉妹はいるものの面会には来ないこと、子どもがいないことが同じだということまで話が進んでいた。

「天気の良い日に、散歩、ご一緒しませんか。」とX子。

「ぜひ。」とY子。職員bが見守っていた。

その時、職員cが薬を持ってやってきた。

「お薬、お飲み下さいね」と職員c。

薬を飲んだX子とY子は、そのまま自室に戻った。

X子とY子とも、自室で何をするわけでもなかった。見たいテレビがあるわけでもない。ひたすら働いてきた。趣味を持つゆとりはなかった。だから、特にすることもない。9時になれば眠りにつく。

「(1000万円の入居金だったが、決して高くはない。全くの他人どうしがこんなに楽しい関係を作れるとは思ってもみなかった。)」X子は真黒な川面を見つめながらそう思った。

「(ひとりぼっちの入居者だから、お互い分かり合えないと思ったけれど、こんなに関係作りがスムーズだとは思わなかった。)」Y子は真黒な空を見ながらそう思った。

3日後に快晴となった。しかし、X子とY子は一緒に散歩することを2人とも忘れていた。しかし、朝食後、職員bがいざない、2人は散歩に出かけた。地域のボランティアスタッフ2人が付き添った。この施設に係るボランティアスタッフは1年間で延べ1000人ほどいる。

「(私も散歩をしたいね。誰か誘ってくれないかね。)」と同じテーブルのS子、T男、U子、V男、W子、Z子は思った。

職員aが言った。

「皆でお散歩に行きましょうか。」

6人が顔を見合わせ、ニコリうなずいた。

決まったスケジュールの中での生活では変化がない。人間は時に変化を求める生き物だ。変化は、体にも脳にも悪くないはずだとこの施設は考えている。